

京都工芸繊維大学学術機関リポジトリ 「KIT学術成果コレクション」

KIT学術成果コレクション

- 平成18年度： IRの構築(DSpace)
美術工芸資料館所蔵のポスター登録、仮公開
- 平成19年度： 上記ポスターの追加登録
村野藤吾建築設計図面集の登録、本公開
- 平成20年度： 紀要論文、学術論文、学位論文、研究成果報告
など各種論文の登録を開始
- 平成21年度： 評価基礎DBとシステム連携し、論文毎に教員の
リポジトリ登録希望を確認できるシステムを作成
<http://repository.lib.kit.ac.jp/dspace/index.jsp>

<美術工芸資料館の紹介>

美術工芸資料館は1980年学内共同教育研究施設として設立され、本学前身の京都高等工芸学校創設時(1902年)から教材として収集してきた資料を所蔵し、所蔵資料について教育研究を行い、さらに展示を目的とする施設です。



「ケルムスコットプレス設立主眼書(巻頭見聞)」
ウィリアム・モリス 著 1896年



「匠匠織(巻)、南校竹庵
に宜しくし織:
黒地に斜格子に鶯渡柳小模様」



「中津岩太博士像」横井 忠
1903年京都高等工芸学校初代校長



「ハンガリーの陶器(巻)」京都高等工芸学校陶器科の教材・標本として購入・収集された陶器

KIT学術成果コレクション
KIT ACADEMIC REPOSITORY



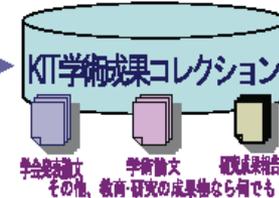
KIT学術成果コレクションで 教育研究成果を発信しませんか

<http://repository.lib.kit.ac.jp/dspace/index.jsp>

KIT学術成果コレクションとは、工繊大に所属している(または、かつて所属していた)教職員、学生の皆さんの本学における教育研究成果を保存し、インターネット上で公開するシステムです。

まずは、本学における教育研究成果物をご提供ください

著作権調査と登録は
図書館で行います



登録された教育研究成果
には、世界中の誰もが自由
にアクセスできます

インターネットで公開

●活用の利点

1. 教育研究成果のインパクトが高まる

Google Scholar はじめ、さまざまな検索エンジンからハイスコアされるので、多くの人の目に留まります。またフルテキストを公開しますので広く教育研究成果を知ってもらうことができます。

2. 自分の教育研究成果の保存庫として便利

恒久的なURLを付与しますので、アーカイブとして未来にご利用いただけます。

3. アクセス状況がわかる

毎月1度、登録された成果物にどれくらいのアクセスがあったかをメールでお知らせします。

ご登録・お問い合わせ： 京都工芸繊維大学附属図書館 kit_repo@iim.kit.ac.jp